

小学5年 総合的な学習の時間「私たちのSDGs」

柏市立高田小学校 森下 真大

1. 情報活用能力育成をめざす単元づくり

(1) 単元について

年間の指導計画の中で、いろいろな教科で横断的に取り組める内容でもあり、カリキュラムマネジメントとしても有意的に進められると考える。また、本校も学校経営目標を「グローバル人材の育成～SDGsの取り組みを通じて～」と掲げており、いろいろな教科や学習からSDGsにつなげ取り組んでいる。しかし、学校全体で取り組んでいる中で、まだ世界的に考えることが多く、『自分事』としてとらえられていないように思える。さらに低学年では、SDGs自体の理解はそこまでできていない。したがってSDGsについての理解が深まる資料を作っていく。

(2) 身に付けたい力

環境問題や人権問題を自分の問題としてとらえ、問題を解決するためにできることを協働的に考え、多角的な視点で調査・追究し、自分たちなりの行動計画をもとに実践活動に取り組む。

(3) 学習計画

学習のゴール：低学年にもわかるSDGs紹介『QRコード』をつくろう

	時	学習内容 ○身に付けたい力	使用教材
1 課題の設定	1	<p>・ 林間学校での体験学習を振り返る。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div> <p>・ SDGsの担い手として身近な問題に対してできる取り組みには何があるのかを考える。また、低学年にもSDGsについてよくわかるように『SDGsQRコード』を作ることを確認する。</p>	

<p>2 情報の収集</p>	<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身のまわりの SDGs について考え、項目ごとに意見を出し合う。 考えられる意見 (水の無駄遣い・ゴミが多い・残飯が多い・男女混合出席番号手すり・バリアフリートイレ・節電・ゴミの分別・筆記用具やノートを大切にする。) ・制作する項目を選び、制作するグループを決める。 ・担当する情報を再度収集する。 <p>○身のまわりの SDGs について考えることができる。</p> <p style="text-align: right;">【創造的思考力】</p>	
<p>3 整理・分析</p>	<p>1 本 時</p> <p>4</p> <p>1</p> <p>1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他学年に伝えるためにどのような伝え方が良いか、また、どのような内容にするかを考える。さらに掲示する場所も考える。 【考えられる手段】 <div data-bbox="456 741 906 882" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の制作。また、必要であれば実践やその分析も行う。 ・低学年に向けてわかりやすい内容であるか資料を見合う。 【見合う視点】 <div data-bbox="464 1111 943 1227" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ①低学年にもわかりやすい内容か ②興味を引く内容か </div> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の仕上げ <p>○他学年にわかりやすく伝えるための内容や必要な情報、手段を考えることができる。 【創造的思考力】</p> <p>○伝達するために必要な実践や分析を行うことができる。 【表現力】</p> <p>○他者の意見を踏まえて自分達の考えを見直すことができる。 【合意形成力】</p>	
<p>4 まとめ・表現</p>	<p>2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を QR コードにし、『SDGs QR コード』について、校内放送などを通して他学年に伝える。 →QR コードの内容から、自分でもやれそうなものにシールを貼ってもらう。(5年生の前の SDGs コーナー) <p>○完成した QR コードを知ってもらうとともに、SDGs の内容について知ってもらうことができる。 【表現力】</p>	

○整理・分析（6～12時間目）

- ・調べた情報をグループで相談し、「何を」「どのように」表現するかを相談した。
その際に、全学年にも理解してもらうことをテーマに情報を整理・分析を行い、適切なものを選ばせる。



- ・QRコードにする資料を制作する
今回は主に Canva, Google スライド, Google ドキュメント, 動画などを活用した。

【スライドグループの例】



- ・低学年に向けてわかりやすい内容であるか資料を見合う。

【見合う視点】

- ① 低学年にもわかりやすい内容か
- ② 興味を引く内容か

- ・資料の仕上げ

振り返り用のアンケートフォームを作成し、リンクを資料に貼り付け、仕上げる。



○まとめ・表現（13・14時間目）

- ・QRコードをラミネートし，学校に掲示する。
- ・他学年に呼びかけをする。



○振り返り・改善（15時間目）

資料に載せたアンケートをもとに振り返りを行ったが，リンクの不具合もあり，思った回答数が得られなかった。そのためどうしたらよいかを再度意見を出した。

- ①リンクの再確認
- ②枚数を増やす
- ③アンケートの場所をわかりやすくする

以上のことをふまえてもう一度QRコードを増やしていった。

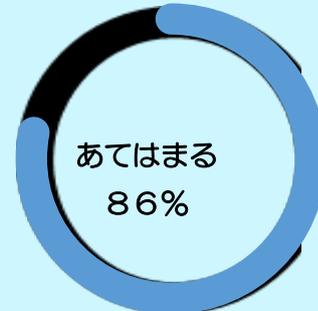
実践を終えて

子どもの変容

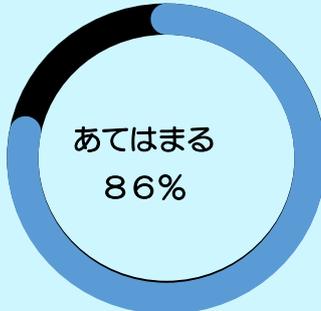
あなたは端末やプロジェクタ
を使う授業は好きですか？



あなたは端末を使うと友達の考え
がわかりやすいと思いますか？



あなたは端末を使うと自分の考
えを友達に伝えやすいですか？



児童に端末を使うことや、使うことで学習に活かされているかなどのアンケートをとったところ、96%の児童が「好き」と答えている。この結果からも、端末を使うことで学習意欲が高まっていることがわかる。また、自分の考えも端末を使うことで友達に伝えやすくなったり、友達の考えを理解しやすくなったりすることがわかった。これは、実際の理解度や深まり度の数値ではないが、学習者の実感としてとても重要なデータであると考えられる。

今回の学習を通して、児童の主体的に学習する面が多くみられた。例えば、宿題の自主学習で友達と資料を制作したいと申し出があったり、休み時間にも集まって作成したりする姿も見られ、端末を活用することで、意欲はもちろん、資料を修正する場面や資料を整理する場面でも多く活用できると考える。

振り返り

この学習を通して、「QRコード」をつくったり、「リンクをつける」といったことは苦手な先生が多いかもしれない。しかし、教師側がいろいろな手立てや方法を掲示しておくことで、子どもたちがその中で自然と取捨選択をし、端末を使うような、本当の意味でも端末が文房具になるようにしていきたい。

「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。